

令和3年6月1日

各 位

山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3

電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



1 2
3 4



6月の人気植物

- ① ニッコウキスゲ・・・夏の草原・湿原を代表する植物 群生する姿は橙色の絨毯
- ② ヒメサユリ・・・花の美しさだけでなく花の名前も人気の秘密 姫早百合
- ③ カキツバタ・・・いずれ菖蒲（アヤメ）か杜若（カキツバタ）白い斑紋が上品
- ④ オゼコウホネ・・・尾瀬・月山・北海道の一部でしか見られない希少種

6月、野草園の植物は夏の装い。色濃くなった緑の中で、様々な植物が鮮やかな花を咲かせています。「クリンソウの谷」では紅紫色のクリンソウが咲き、その東側の草地には橙色のニッコウキスゲが咲き、谷一面がピンクと色とオレンジ色の花でいっぱいです。

また、「ひょうたん池」には柱頭盤が赤いオゼコウホネが咲き、その西側では淡紅色のヒメサユリが咲き始めています。

このように様々な種類の植物を一箇所で見ることは、野草園ならではの事です。園外でこれらの植物を1日で見ようと思ったら、かなり広範囲に移動しなければならないからです。野草園の敷地はかなり広いので、ソーシャルディスタンスを十分に保つことができます。友達や家族で野鳥や春蝉の鳴き声を聞きながら、山野草を愛でて気分転換を図ってはいかがでしょうか。さあ、野草園に足を運んでみましょう。

6月前半の予定

◆開園時間短縮について

6月1日～8月31日は午前9時から午後6時まで開園予定でしたが、クマ侵入に備えた安全確保のため、午前9時から午後4時30分までの開園時間とします。尚、入園は午後4時までです。

◆開園時間短縮と同様の理由から、夜の「ホタル観察会」は中止になります。

◆6月から観察会・体験教室を、県内在住者を対象に再開します。参加する際は不織布マスクを着用してください。

◆山野草の育て方教室

日時：6月15日（火）10:00～12:00 講師：蔵王園芸店 佐藤祐一 氏

定員：県内在住者先着 13 名

参加費：材料代・入園料込 2,500円（高校生以下 2,200円）

内容：レンゲショウマ、ナツエビネ、ダイモンジソウの寄せ植え（実技）・育て方

申し込み：電話で野草園まで（023-634-4120）

◆ガイドウォーキング

期日：6月5日（土）、6日（日）、12日（土）、13日（日）

6月前半は土曜日曜実施

時間：1回目 10:30～11:30 2回目 13:30～14:30

定員：各回先着 10 名 事前に学習センター前で整理券をお取りになってください。

◆第27回野草園の魅力を探る写真コンテスト入賞作品展

期間：5月15日（土）～7月4日（日）

内容：令和2年度入賞作品 14 点を展示

◆山野草販売 土曜・日曜・祝日に、自然学習センター前で販売します。

◆カフェやまぼうし 木曜・土曜・日曜・祝日に営業します。

《メニュー》カレー、ピザトースト、バナナシェイク、コーヒー

◆博物館実習生募集

募集期間 5月17日（月）～6月30日（水）

実習期間 8月24日（火）～29日（日）

※詳細は野草園ホームページの申込要項をご確認ください。

(<https://www.yasouen.jp>) (023-634-4120)

●●●6月前半に見られる主な植物●●●



クリンソウ(サクラソウ科)

山地の湿地などに生える多年草で、長楕円形の大きな葉の表面にはしわがたくさんあります。花が開く頃に花茎はぐんぐん伸び、紅紫色の花を5～7段輪生状に多数つけます。日本のサクラソウの仲間では最も背丈が高い種です。花の様子を寺院の塔の頂上部にある九つの輪の装飾（九輪）に例えたことが名前の由来です。



ニッコウキスゲ(ススキノキ科)

本州の中部地方以北の山地に生える多年草で、草原に群生することがよくあります。花茎の先に黄色い花を3～4個つけます。花は朝開いて夕方にはしぼむ一日花で、漏斗状の鐘形です。若葉や花のつぼみはおいしいらしく、シカなどの動物も食べるようです。



ヒメサユリ(ユリ科)

新潟県と東北地方南西部の高山に生える多年生草本です。ササユリに似ていますが、草丈が少し低くて、雄しべが外に出ないという違いがあります。漏斗状鐘形でピンク色の花を茎の先に1～2個つけます。名前の由来はササユリに似ていて小形であるからのようです。別名オトメユリは、可憐さを表しています。



カキツバタ(アヤメ科)

湿地に生育する多年草です。ヒオウギアヤメやノハナショウブに先がけて咲きます。葉の幅が広く中肋（中央に通る太い葉脈）はありません。花茎の先に青紫色の花をつけ、花弁の中央基部には白色の斑紋があります。花は衣服を染めるのに利用されたため、名前の由来は「書付花（搔付花）」がなまったものといわれています。



オゼコウホネ(スイレン科)

高山や北地の池沼に生える多年生の水草です。水に沈んでいる葉と水面に浮かぶ葉があり、水面の葉は深く切れ込みがあります。長い花茎を水面に出し、黄色の花を1個開きます。黄色の花弁のように見えるのは萼片で、内部に小形の花弁があります。コウホネとは雌しべの柱頭盤が赤いことで区別することができます。



ホオノキ(モクレン科)

落葉高木で、高さは30m以上になるものもあります。葉は長さ20～40cmにもなり、倒卵状楕円形で全縁です。そして裏面は白い粉を帯びています。互生しますが、枝先に束生し、輪生状に見えます。大型で白い花が真上に向かって開花し芳香があります。花弁がらせん状に配列し、萼片と花弁の区別も明瞭ではありません。



ヤマボウシ(ミズキ科)

各地の山野に普通に自生する落葉高木で、ハナミズキに花や葉は似ています。花弁のように見えるのは苞で、その中心にある淡黄緑色の小花が20～30個密集した丸いものが花序です。秋には果実が赤く熟します。丸いつぼみの集まりを坊主頭に、白い苞をその頭巾に見立てたことが名前の由来です。



チョウジソウ(キョウチクトウ科)

湿った草地に生える多年草で、茎は直立して上の方で枝分かれをします。葉は互生し披針形で先はとがります。茎の先端に多数の花をつけます。花は青紫色で下部は筒となります。上部は5裂して平らに開き、裂片は狭長楕円形です。横から見ると花の形が丁の字に似ているということが名前の由来です。



ヒオウギアヤメ(アヤメ科)

湿った草地に生える多年草です。葉の幅はアヤメに比べて広く剣状をしています。3枚の外花被片は大きくてアヤメに似ていますが、内花被片3枚は小さく目立たず、上に立ち上がりません。葉が桧扇(ヒオウギ)に、花がアヤメに似ていることが名前の由来です。



キタマムシグサ(サトイモ科)

高原から山地の林の下などに生える高さ30～80cmの多年草です。従来、コウライテンナンショウと呼ばれていた植物ですが、仏炎苞の脰部がよりヘルメット状に膨らみ、白糸が広がって半透明になるという形質で前種とは区別できます。太い茎が直立し、茎の皮が蛇の体のうろこに似ていることが名前の由来です。



エゴノキ(エゴノキ科)

雑木林などに生えている落葉小高木です。今年伸びた小枝の先端に白い花を下向きに数個ずつ付けます。花は5裂した白い花弁で、雄しべの黄色い葯が目立ちます。枝は花でいっぱいです。花後にできる果実は毒性があります。果実が“えぐい”(あくが強いがらっぽい)味がする木ということが名前の由来です。



ムシャリンドウ(シソ科)

茎先に青紫色の花をまとめてつけ、花の長さは 3 cm くらいの唇形です。筒部は太く、下唇が発達していて、濃い紫色の斑が入り、羅生門蔓（ラショウモンカズラ）にやや似ています。下部の葉には柄があり、披針形です。葉は幅の広い線形で、向かい合って生える対生です。



オオナルコユリ(キジカクシ科)

北海道から九州に分布する多年草で比較的明るい落葉林の下などに生育します。同属のナルコユリやミヤマナルコユリに比べて大形で、茎の高さが 1 m 程、葉の長さは 30cm にも達し弓状に曲がります。細い花柄の先に、6 枚の花被片が合着した筒状の花を 2～4 個つけ、数組が垂れ下がります。この垂れ下がる花の様子を鳴子に見立てたことが名前の由来です。



バイケイソウ (シュロソウ科)

山地の湿った草地に生え、直立した茎の高さは 2 m 程にもなります。葉は大きく長楕円形です。1 つの花は径 2 cm 程の緑白色の 6 弁花ですが、それが集まって非常に大きな花穂になります。花が梅の花に似ていて、葉がケイランに似ていることが名前の由来です。



マルバダケブキ(キク科)

深山のやや湿り気のある草地や林縁に生える多年草です。葉はフキに似て長い柄があり腎円形です。茎の先に大きな黄色の花をつけます。花は大形の舌状花が 10 個程あって中心には筒状花が多数集まります。同じ仲間のトウゲブキに似ていますが、花も葉も大きいようです。



フタリシズカ(センリョウ科)

山野の林内に生える多年草です。ヒトリシズカの葉が 4 枚でほとんど同じ所から出るのは違って、葉はやや接近して対生します。白い米粒のようなものが 1 個の花で、たくさん付けた花穂を 2 本付けることが多いので、ヒトリシズカに対してフタリシズカと呼ばれています。



ベニサラサドウダン(ツツジ科)

中部地方北部から東北地方南部まで分布する落葉低木です。花は鐘形で、下向きに咲き、紅色の花には濃紅色の縦の筋が入ります。サラサドウダンに比べ、花はやや小さく、色は濃いです。同じ仲間のベニドウダンは、さらに花は小粒で、色は濃くなります。



ガマズミ(ガマズミ科)

日当たりの良い山野や林縁などに生えます。幹は株立ち状になり、太い幹は 4cm 程になります。葉は対生し、形は広卵形から円形です。縁には浅い鋸歯があり、葉の両面に毛があります。本年枝の先から、散房花序を出し、白い小さな花を多数付けます。



スイレン(スイレン科)

水底の土中に根と地下茎があり、葉と花は水面に浮きます。スイレン属は花が美しいのでよく栽培されます。葉の形は円形で一方が深く切れ込み、花弁と雄しべは多数あり、雌しべは合生して柱頭は放射状になります。「睡蓮」の名前は、「朝に花が開いて夜に閉じる」睡る蓮ということに由来します。



ヒツジグサ(スイレン科)

湖沼に見られる多年生水草です。卵円形で光沢がある緑色の葉を水上に浮かべて、細長い花柄の先に白い花を開きます。萼片は4枚で緑色、花弁は白色で8～15枚あり、長さは萼片とほぼ同じで、黄色い雄しべの葯が目立ちます。名前は末草(ヒツジグサ)で、末の刻(午後2時)頃に関くことに由来します。そして、夕方には閉じてしまいます。



ハコネウツギ(スイカズラ科)

太平洋側の山地に生育する高さ2m程の落葉低木です。対生する葉はやや厚く、枝先に多数の筒状花を付けます。花は初め白色で、徐々に紅色に変化します、だから1つの木に白色と紅色の花が咲き並び華やかです。また雌しべの柱頭が少し出ている目立ちます。名前はハコネですが箱根にはわずかにしか自生していないそうで